

八木小の新しい教育について NO.5

広島市立八木小学校
校長 斉藤 正信

平成22年度 全国学力・学習状況調査の結果及び指導方法等の改善計画

記

初秋の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素より本校教育活動にご支援とご協力をいただき感謝しております。さて、4月22日に行われた「全国学力状況調査」の結果が国立教育政策研究所 教育課程研究センターより発表されました。その結果を基に、分析し、本校の定着状況と課題を明らかにし、指導方法等の改善計画をたてましたので、ご報告いたします。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査方式

文部科学省が調査対象として抽出した学校における小学校第6学年及び中学校第3学年の全児童生徒を対象として、調査を行う。（本校は、今年度抽出校です。）

抽出率の設定については、都道府県ごとに平均正答率が95%の確率で誤差1%以内となるように文部科学省において設定する。

3 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語，算数）

主として知識に関する問題〔A問題〕

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

主として活用に関する問題〔B問題〕

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 各教科の平均正答率

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
学 校 (%)	77.9	72.6	66.5	41.3
広島県 (%)	85.3	81.1	77.3	51.9
全国 (%)	85.3	77.8	74.2	49.3

5 各教科の調査結果の概要

【小学校国語】

国語 A

国語 B

【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
話すこと・聞くこと	83.2	86.7	74.4
書くこと	67.7	70.4	56.4
読むこと	74.1	76.5	71.5
言語事項	85.8	87.5	79.8

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
話すこと・聞くこと	75.4	79.3	66.9
書くこと	91.6	93.2	93.0
読むこと	73.4	76.9	68.0
言語事項	73.0	75.6	61.6

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
選択式	80.8	82.7	75.6
短答式	84.6	86.6	79.1
記述式	-	-	-

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
選択式	75.3	78.3	69.5
短答式	91.6	93.2	93.0
記述式	73.5	77.9	65.4

定着状況

書かれている事柄を比べて共通点や相違点を書きだすことはできています。

前学年までの配当漢字を読むことは9割以上の力がついています。

読み手が評価した内容を整理することについては、相当数の児童ができています。

課 題

話すこと・聞くことについては、話の中心や話し手の意図をとらえながら聞き、適切に質問する力が十分についていないと思われます。

書くについては、文と文との意味のつながりを理解し、文の論理を考えて書くことに課題があります。

読むことについては、特に、説明的な文章の内容を的確に押さえながら読む力に課題があります。

【小学校算数】

算数 A

算数 B

【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
数と計算	74.1	75.8	65.8
量と測定	74.1	77.9	61.2
図形	77.5	85.6	83.1
数量関係	66.3	71.8	65.7

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
数と計算	55.8	57.0	40.7
量と測定	33.3	39.4	24.4
図形	42.0	46.0	35.1
数量関係	54.3	56.0	46.5

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
選択式	66.8	79.3	76.5
短答式	66.4	76.1	66.4
記述式	-	-	-

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
選択式	59.1	61.2	49.3
短答式	69.0	70.6	67.4
記述式	31.6	35.2	22.8

定着状況

全領域にわたって定着状況が低くなっています。

数と計算の加法と乗法の混合した整数の計算など基礎的な計算は、おおむね身についてきています。

数量関係では、円グラフの内容を見て目的に合うものを選び必要な情報を読み取ることができています。

課題

数と計算では、商が1より小さくなる等分除の場面で除法が用いられることや数量を等分した時の1つ分を分数で表わすことへの理解に課題があります。

数量関係では、割合が一定の場面で比較量が最も大きくなる時の基準量を判断しその理由を記述することに課題があります。

短答式問題では、解答することができますが、答えを記述する問題形式では、解答することが難しいことから筋道を立てて考え、数学的に表現することに課題があると思われます。

6 意識調査結果について

学習

昨年の基礎基本テストでは、問題に取り組む前からあらかじめ無回答のままの児童が見られましたが、今年度のテストでは、無回答の児童はいませんでした。アンケートでも、問題にあきらめずに取り組めたと答えた児童がふえ、粘り強く問題へ取り組む姿勢が育ってきていることがうかがえます。

授業でノートを丁寧に書いている・どちらかといえば書いていると答えた児童が多く、学習規律が育ってきていると思えます。

読書が好き・どちらかといえば好きだと答えた児童が多く、朝読書の取り組みが効果を上げています。

国語・算数ともに学習が好きだと答えた児童は少なく、新しい問題に取り組む意欲や簡単な方法で問題を解くことを考えることへの意欲が低めです。

家庭での学習の時間が平均よりも少なく、家庭学習の習慣が十分に育っていないと思われれます。特に、自分で計画を立てて学習をあまりしていない・全くしていないと答えた児童は55.9%と半数以上を占め、宿題をあまりしていない・全くしていないと答えた児童が7.0%もいました。

生活

朝食を毎日食べている児童が90%以上います。

睡眠時間が十分取られています。

自分には良いところがあると思う・どちらかといえば思うと答えた児童が75.6%と5年生の時より増えています。

学校のきまりや友だちとの約束を守るなどの規範意識がやや低い傾向にあります。

ゲームやテレビ・インターネットを1日に2時間以上している児童が多く見られました。

今すんでいる地域の行事に参加している児童の割合が少ないです。

7 課題解決に向けた指導方法の改善計画

<課題解決に向けた国語科における具体的実践>

「読むこと」の指導に際しては、文章中のキーワードを常に意識させると共に、時系列や小テーマによってまとめる学習に力を入れていきます。

「話すこと、聞くこと」の指導に当たっては、国語の授業だけでなく、生活全般にわたって楽しく、多様な活動ができるよう工夫します。また、インタビュー学習などにより質問が適切にできるよう指導します。

朝読書を継続し、読書指導を充実させるとともに、国語辞典を活用させることで基礎となる知識を育てます。

<課題解決に向けた算数科における具体的実践>

具体的な操作活動を多く取り入れ、立式の意味が説明できるような力を育てます。児童の理解を助けるために具体的なものから抽象的なものへと教材を工夫していきます。

言葉、式、図、数直線などを用いて割合の概念を視覚化し、基準量、比較量、割合の数量関係を捉えやすくします。

基礎的・基本的な知識・技能の定着のため、帯時間や授業の中で繰り返し練習させます。

文や絵・図などを用いながら、自分の考える過程が見えるようなノートをとらせるなど、筋道を立てて物事を考えるようにさせたり、学び合いの中で考えを深めさせたりする授業作りをすすめます。

学力向上へ向けた全校的な取り組みについては、八木小の新しい教育 No.6 でお知らせします。6年生の個人結果については個人懇談の時にお渡します。